



研究テーマ：コロナ禍における性的マイノリティの職場でのメンタルヘルスに影響を与える要因分析

研究者： 閻 亜光

YAN YAGUANG

(経営経済学部経営経済学科 助教)

【研究・開発の目的】

本研究の目的は、コロナ禍における性的マイノリティの職場でのメンタルヘルスに着目し、メンタルヘルスに影響する要因を明らかにした上で、企業と個人の相互作用を含め、その要因に関する考察を行うことである。また、本研究で明らかになった要因をどのようにダイバーシティマネジメントに活かせるかを明らかにする。

【研究・開発のきっかけ】

2020年から新型コロナウイルスが世界中に蔓延し、人々の生活に大きな打撃をもたらしている。健康問題を含め、性的マイノリティ当事者はコロナ禍において、職場での差別待遇などに直面すると考えられる。そこで、従業員のメンタルヘルスに注目し、性的マイノリティ当事者が勤務する際に、メンタルヘルスに影響する要因を明らかにする研究を行う。個人の健康は組織の人材確保にも影響を与えるものだと考えられるため、相互的影響の有無も本研究にて解明し、ダイバーシティマネジメントの全貌をよりクリアすることを目指す。

【研究・開発の概要】

本研究は性的指向のような深層的なダイバーシティを持つ性的マイノリティ当事者に焦点を当てることにより、ダイバーシティマネジメントの実施にも良い影響を与えると予想される。本研究で得られた結果は、ダイバーシティマネジメントという管理方法に還元され、日本企業ではより健全且つ有効なダイバーシティマネジメントの実施が期待できる。

【研究・開発の特色】

LGBTが代表する性的マイノリティ当事者に関する研究は心理学や社会学など他研究分野において研究されてきたが、経営学の観点で、性的マイノリティ当事者のメンタルヘルスにフォーカスしたことはかなり斬新な試みだと考えている。さらに、本研究は当事者が属する企業の観点と個人の観点を融合し、社会に発信する際の新たな着眼点にもなる。

【今後の展開】

本研究の実施後、LGBTの中、トランスジェンダーにフォーカスした研究を行う。性的マイノリティ研究の中でも、比較的取り扱いにくいトランスジェンダーの勤務実態を明らかにする研究である。日本では、トランスジェンダーの協力者は探しにくいいため、比較的トランスジェンダーに友好である台湾での現地調査を視野に入れている。

【地域・企業へのメッセージ】

マイノリティ存在は、企業および社会に欠かせないものであり、誰でも働きやすい職場づくりのため、微力ながら貢献していきたい。